

分科会報告 F分科会

●テーマ：子どもと住環境

- 司会：三輪淳子（島根県建築士会、創作工房さび庵 代表）
- アシスタント：川井香織、渡部由美子（ともに島根県建築士会） ●出席者：30名



主旨

現在の高齢化が進む社会では、子どもと高齢者、障がい者との関わりも、いろいろな場面で出てくると思われる。この分科会では、三重県建築士会の活動内容を発表していただき、さまざまな関わりの中で出てくる課題について、参加者と意見交換しながら考えてみた。



●F分科会の様子

事例発表

「ユニバーサル・デザイン講座」

コメンテーター：伊藤順子、田中文代  
（ともに三重県建築士会）

三重県ユニバーサル・デザイン（UD）アドバイザーである伊藤順子さんから、県庁を通じた学校からの依頼で、年1回、中学校の家庭科の授業時間に行ったユニバーサル・デザイン講座の内容を紹介していただいた。

実際の講座のミニ体験をしてもらうために、グループに分かれワークショップ形式とした。もし家族に障がいを持った人がいたらという想定で、平面図を使い、不自由と思われるところを話し合い、グループで発表をした。

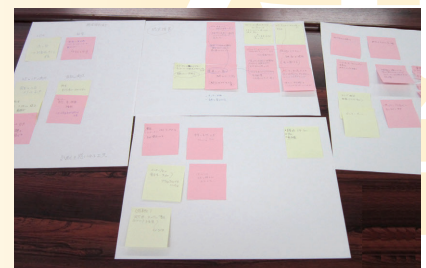
講座を進行していくにあたって困ったこととしては、今の子どもたちは想像性に欠けているため、想定から考えることがなかなかできず、進め難かったそうである。

講座には車椅子とメジャーも準備し、実際に体感してもらうとのことである。

今後はユニバーサル社会をめざす子どもを育てる講座をしていきたいという話もしていただいた。

意見交換

各県から子どもに関する取り組みについて伺った。高校生のアイデアコンテスト、子ども絵マップ、お菓子の家づくり、DVD紙芝居、ウォークラリーで都市計画の昔と今を比べるなど、さまざまな活動があることが分かった。また、県と女性委員会が一緒になって住教育をしている福井県、学校を教材とした環境学習をしている東京都、20年間、総合学習などに出前講座をしている神奈川県など、実際に教育現場に出向いている県もかなりあった。活動費用の助成金についても意見交換した。



●グループビンゴして意見を集約

まとめ

意見交換の中で、最近、どこの学校でも発達障がいの子が多いという話が出た。女性の立場から見ても、私たちの日々の活動がそのような現状にも役に立っていけるのではと思った。



●発表風景